

『平成25年台風18号出水における日吉ダム洪水調節操作』 ダム工学会 技術賞を受賞しました。



平成25年台風18号による出水において、桂川上流の日吉ダムでは、計画規模を超える流入量の最大約9割を洪水時最高水位（サーチャージ水位）を超えてダムに貯め、亀岡盆地、嵐山及び桂川下流域に対する洪水被害軽減に大きく貢献しました。

また、桂川下流では、仮に日吉ダムがなく、右岸側で堤防が決壊した場合、約13,000戸の浸水、約1.2兆円の被害が発生したと推定されます。

この操作は、刻々と変わる雨量状況に対して、下流の状況と流入量予測・ダムの残容量を確認しながら、ダムの効果を最大限発揮させ、下流被害を最小

限にとどめるために日吉ダム管理所と淀川ダム統合管理事務所で迅速に検討して実施しました。

このことに対して、ダム技術の発展に著しい貢献をしたと認められ、一般社団法人ダム工学会より技術賞を、独立行政法人水資源機構日吉ダム管理所及び国土交通省近畿地方整備局淀川ダム統合管理事務所が表彰を受けました。



技術賞は、ダムの計画、設計、施工、または維持管理等に関して、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業または業務を実施した個人または団体に対して授与されるものです。